

平成 26 年度ユネスコスクール活動「天城学習」のまとめ

活動期間：2014年4月～2015年3月

1. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（ ）

2. 活動内容

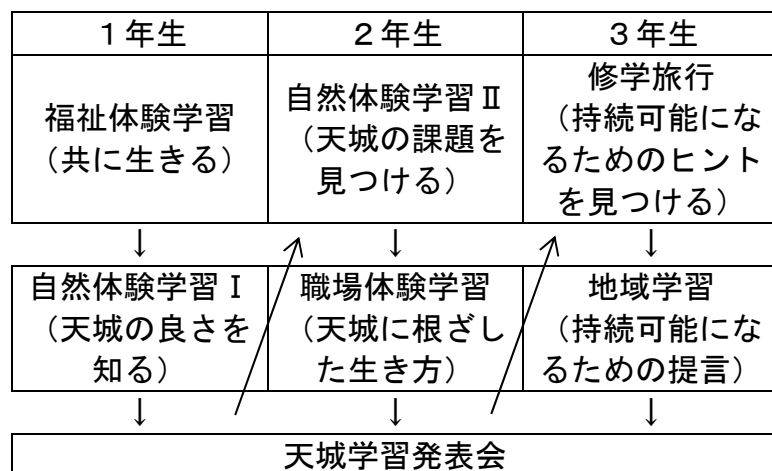
(1) 主な活動内容

本校の総合的な学習は「天城学習」と称し、「持続可能な地域社会・天城の担い手を育てる」ことを目的に行っている。

1年生では、「福祉体験学習」と「自然体験学習Ⅰ」を通してまずは自分たちの住む地域の人との共生、人と自然との共生の実態を自分の目や肌で感じ、自分たちの住む伊豆市、天城のすばらしさを再認識することを目的に行っている。

2年生では、「自然体験学習Ⅱ」を通して、天城の自然の素晴らしさと共に課題について、「職場体験学習」を通して天城の自然や風土の中での生き方について認識することを目的に行っている。

3年生では、「修学旅行」で奈良・京都が観光都市としてなぜ持続発展しているのかを調査してそれをヒントとし、さらに個の課題に沿ったインタビュー活動「地域



3年間の流れ

学習」で追調査を行い、1年生からの学習の集大成として「天城が持続可能な社会となっていくために何が必要か、何ができるか」をまとめて提言している。

1月には、各学年の学習の成果を、天城会館というホールで保護者、地域の方々をお呼びして発表会を行っている。

平成26年度の各学年の具体的な活動のようすを次に示す。

1年生

『福祉体験学習』

「福祉学習の事前学習・事前準備や実施を通して、障害を持つ事の大変さを理解し、障害を持つ人への接し方を学ぶと共に、福祉施設の重要性に気づくこと。」「持続可能な社会の実現に向けて、自身で判断し活動するための行動力を培うこと。」を目的として、福祉体験学習を行った。

事前指導としてアイマスク、車いす体験などをして、心構えや対応の仕方について学んだ。訪問先として近隣の4つの福祉施設（障害者施設、老人施設）に分かれ、施設の方のお手伝いや入所者との交流を行った。さらに、訪問グループごとに、「桃太郎」の紙芝居、「水戸黄門」の寸劇、「赤とんぼ」「荒城の月」などの余興も行い、喜んでもらった。



福祉体験を通して、『笑顔』『優しい心』『理解する心』があれば、誰もが住みよい天城になっていく。」「長所を出し合い、協力し合うことが社会に必要なことだ。」「まずは自分から行っていきたい。」という学びがあった。

『自然体験学習 I』

小雨が降る中、天城山の皮子平登山を行った。3200年前の噴火による皮子平の成り立ちについて、目の前に並ぶ大きな軽石や足元に落ちている黒曜石



を見ることによって理解を深めた。また、大きいブナの木に圧倒されたり、霧に包まれたブナ林の幽玄な雰囲気を感じたり、天城の自然の素晴らしさを存分に実感してきた。「私たちは素晴らしい場所に暮らしている。」「将来ずっと残していきたい。」

「私たちも守っていききたい。」「将来ずっとこの自然が残っていくために、小さなことでも自分にできることを行っていきたい。」というような思いをもつことができた。

2年生

『自然体験学習Ⅱ』

自然体験として、天城縦走を行った。50年に一度あるかないかの「アマギシャクナゲ」の満開に遭遇し、「天城への誇り」がさらに高まったこと、縦走路の入口の駐車場に他県ナンバーの車がたくさん停まっていたことに驚き、「自分たち地元の人の方が天城のよさを分かっていないのでは？」という問いを持つようになった。

そんな思いから「天城をもっと知る」という目的で、『教えて先輩！行ってQ!』という活動を行い、狩野氏などの歴史や、映画・文学の舞台としての魅力、江戸の木材や食を支えた豊かな自然、船原スコリア丘をはじめとしたジオパークとして価値などについて調べていった。「天城のよさを、もっと知ってもらいたい。もっともっと活かしたい。それを地域の活性化につなげたい。」という問いや、ブナなどの天然林や農産物がシカやイノシシによる食害を受けている実態を知り、「自然を持続可能にする方法はないのか。」「天城には他にどんな課題があるのか。」などの問いも生まれた。

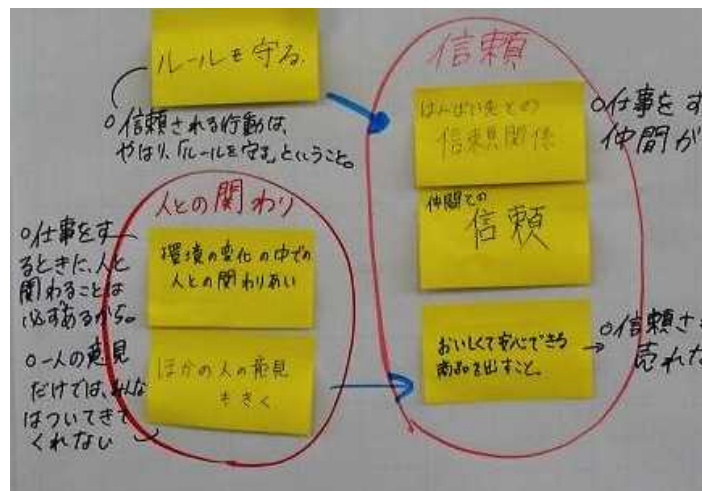


『職場体験学習』

「勤労観・職業観」について学ぶことはもちろんのこと、「地元天城に根ざした職業人としての生き方や仕事の工夫について学ぶ」ことをねらいとして、天城を中心に伊豆市内25事業所へ行き「職場体験学習」を行った。天城の観光産業の中核である旅館では、お客様にリピーターになっていたために、都会では味わえない「空間」を演出していること、「掃除」を極め細やかに行っていること、常に



「おもてなし」の心と「笑顔」で対応していることなどを学んだ。また、その基盤となる「必要な資質」として、同僚同士で「あいさつ・礼儀」、「笑顔」、「協力性・協調性」、「コミュニケーション」、「ルール・時間を守ること」などを大切にすること、与えられたことに「責任」をもち、また



「柔軟」に対応することなどで互いに「信頼」できるようになることが大切であることを学び、今後の自らの在り方や生活について見直した。

3年生

『修学旅行』～『地域学習』

5月には、「修学旅行先の古都京都から、天城の魅力の活かし方として学べることはないか」という課題で、天城の中心産業である「旅館」「観光」「農産物」「お菓子」をその切り口にして、京都市役所観光局、老舗旅館、老舗和菓子店、JA等へ行き、インタビュー活動を行った。

また、10月には天城の「旅館」「観光」「農産物」「お菓子」は、現在どのような工夫をしているのかをあらためて探った。

そして、「今後、各方面からどうしていけば、天城が魅力あるふるさととして持続しけるのか、また、そのために自分には何ができるのか」を提言としてまとめ、発表した。次は3年生の論の概略である。



『伊豆市の宿泊者数は平成11年度と比べ、半減している（現在は年間約80万人）。京都では、現在ますます観光客数が増加している。京都は、「景観条例」を定めるなどして古都らしい景観を守っている。では伊豆には素晴らしい景観はないのか。



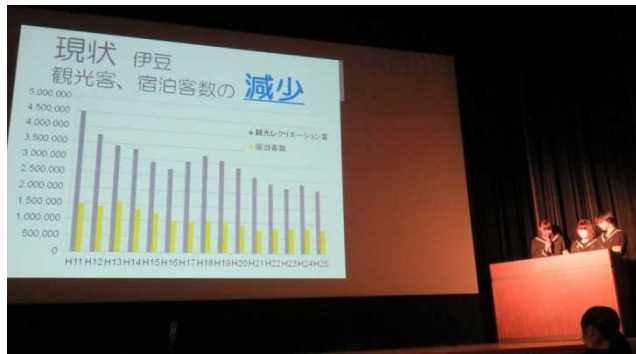
「日本棚田百選の長野の棚田」「素晴らしい展望の達磨山」「イギリス村、カナダ村などがある虹の郷」「日本百名湯の修善寺温泉」…などたくさんある。また、天城には文豪がこよなく愛した「旅館」がある。旅館には清流が流れている。景色の良い露天風呂がある。四季折々の

景色を楽しめる遊歩道がある。廊下の絵などに本物が使われている。地元のおいしい食材で料理を作っている。天城の旅館にはセールスポイントがたくさんある。数え切れないほどある。

市でも、伊豆の観光情報の発信を東京などからも積極的に行っている。私たちが、まずは「伊豆のよさをちゃんと知ること・私たちが好きになること、誇りを持って暮らすこと、私たちが身近なところからPRすること。」「美しい景観を守り、よりよいものにしていくために、身近で気付いたことを小さなことでも行っていくこと。」「お菓子、加工品など、自分たちが食べたいようなものを作り出してみること。」「…などが、やがて観光客数増加、天城の活性化につながっていく。』

天城学習発表会

会場（天城会館）には、保護者をはじめ、お世話になった事業所の方、各区々長、民生委員など地域の皆様がお見えになり、生徒の発表を聴いて頂いた。「生徒が堂々と発表している。」「生徒の発表を聴いて、はじめて知ったこともある。」「もっといろんな方に聴いてもらいたい。」等の肯定的なご意見をたくさん頂いた。



また、市長様からも講評を頂いた。「観光客数は減ったといっても約80万人いる。」「『今噴火している西之島の200万年後の姿を見てみたいと思いませんか？見られます。それが伊豆半島です。』とジオサイトをPRすればよい。」等、考えたことを行動に移していく上でのヒントをお話の中でたくさん頂いた。



来年度も、生徒が天城についての学びを積み重ね、天城にも自分自身にもさらに誇りをもつよう指導していきたい。